

いすみスタイル.Com
isumi-style



地球環境基金助成事業 活動紹介編



NPO 法人いすみライフスタイル研究所(以下、いら研)では、2016 年度から地球環境基金の助成を受け、夷隅川流域での里山・里海環境維持活動を行ってきました。この号では、これまでの地球環境基金の助成を受けて行ってきた主な活動を振り返ってご紹介したいと思います。

この活動を一言で言うと、「いすみ地域を流れる 2 級河川夷隅川の生態系と生物多様性が地域に恵みをもたらしていることも含めた、大きな意味での環境を大切にすることの重要性を伝え、大切にすることを増やしたい」ということでした。

まちづくりの NPO が環境保全活動を行うことに違和感を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、地場産品から観光、そして、移住・定住に至るまで、地域に魅力がなければその良さを伝えることができません。そして、その地域の魅力の元になっているのが、この地域では夷隅川が生み出す生態系を含めた環境全体であり、まちづくりと環境保全とは表裏一体なのです。

◆海と川の環境保全活動◆

1. リバークリーン

いすみパドルクラブの協力を得て、SUP（スタンドアップパドル）を使って夷隅川の川掃除と環境保全啓蒙活動を行っています。大人に交じって小さな子供たちも元気に参加してくれて、これまでにたくさんのゴミを拾ってきました。

これからも続けていく予定です。皆さんの参加をお待ちしております。お問い合わせは、いら研（☎ 0470-62-6730）かいすみパドルクラブ（☎ 080-5548-0289）まで。

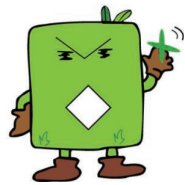


2. ビーチクリーン

夷隅川の掃除と並行して、海岸清掃も行ってきました。地元の太東海水浴場や大原海水浴場で開催されるビーチスポーツイベントで行ったほか、岬中学校 2 年生の総合学習でのビーチクリーンのお手伝いなどを行ないました。



写真上：大原海水浴場でのビーチクリーン。ご当地アイドルも手伝いに来てくれました。写真右：岬中学のビーチクリーン。



・地域での協働活動・

1. 「ICEBA2018 in いすみ」と 「第13回日韓田んぼの生き物調査交流会」への支援



まずご紹介したいのが、2018年7月にいすみ市で開かれた国際会議「第5回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA)2018」の民間支援団体として、「第13回日韓田んぼの生き物調査交流会」、地域見学ツアー、DVD上映会、パネル展示を行ったことです。

韓国、ブータン、フィリピンなど有機稲作を行っている国々の方々に、いすみ市での学校給食の有機米導入などの取り組みを知っていただき、生物の多様性を活かした有機稲作についての技術交換、交流などを行っていただくお手伝いをさせていただきました。



写真上：左右とも「ICEBA 2018」での地域見学ツアーの様様。



写真：上2枚とも「第13回日韓田んぼの生き物調査交流会」の様様。

2. 「ライスデー房総」への運営参加

毎年11月最終日曜日に隣町大多喜にあるハーブガーデンで開催されている「ライスデー房総」の運営に参加し、「ライス de 座談会」や紙芝居上演会を行ってきました。「お米をたべよう」テーマにしたこのイベント、毎年千人近くの来場者があります。

生き物がたくさん暮らす湿地である水田の保護に貢献できると考え、応援させていただいています。



写真左上：「ライスデー房総 2020」での「ライス de 座談会：いすみ市学校給食の有機化と教育ファームの取り組み」の様様。右上：「ライスデー房総 2020」でのキム・ファンさんによる紙芝居「田んぼでもぐもぐ」ほか上演会の様様。

3. 「エコメッセ in ちば」への運営参加

持続可能な社会を目指し、こどもから大人まで環境について学び、体験、交流する環境活動見本市「エコメッセ in ちば」の実行委員として運営に参加しました2019年には紙芝居「田んぼでもぐもぐ」の上演会とブース出展をし、2020年はオンライン出展を行い、東京湾岸都市部の多くの人に私たちの活動を紹介させていただきました。



写真左上：「エコメッセ in ちば 2019」での柿本真美瑛さんによる紙芝居「田んぼでもぐもぐ」の上演会。右上：「エコメッセ in ちば 2020」でのオンライン出展。

4. 「生物と環境に関する中・高・大学生交流会」への運営参加

夷隅郡市自然を守る会と房総野生生物研究所が主催する「生物と環境に関する中・高・大学生交流会」の運営のお手伝いもさせていただきました。この会は、千葉県夷隅郡市および近隣市町村にある学校に通う中・高・大学生がこの1年間に行ってきた生き物の観察・研究の成果を発表してくれるものです。子供たちが熱心に研究に打ち込む姿には、毎回感心させられます。



・ESD*・環境教育活動・

1. 生物多様性テキストの作成と市内小学校への配布

いすみ市の学校給食米の全量有機化と並行して、2016年から小学5年生を対象とした総合学習「教育ファーム」がスタートしました。企画・運営はいすみ市農林課、授業は房総野生生物研究所。有機稲作を中心とした農業体験と田んぼの生きもの調査に、生物多様性学習と農業の変遷に関する学習を融合させた、食農教育と環境教育とが一体化したプログラムです。

「教育ファーム」の体験や実習を取り入れる学校が増えそうということもあり、小学校の先生方がそれぞれの学校の環境・実



写真：2020年5月、長者小学校へテキストを届けた時の様様。

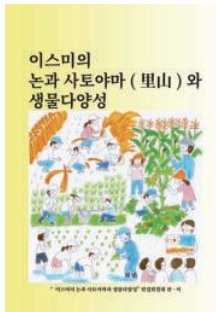
情に応じて取り組むことのできるテキスト(冊子)作りを行うことになりました。

執筆は農林課と房総野生生物研、編集と印刷はいら研が担当、内容や表現のチェックを小学校の先生3名にお願いして、2020年3月テキスト(副読本)「いすみの田

んぼと里山と生物多様性」が出来上がりました。このテキストは、市内9小学校の5・6年生全員に配られました。

2. 生物多様性テキストの韓国語版の作成と韓国内への配布

「ICEBA2018 in いすみ」での「日韓田んぼの生きもの調査交流会」で交流を持った、有機稲作に関わりのある韓国の方々にも「いすみの田んぼと里山と生物多様性」のことを知っていただきたいとの思いから、韓国語版を作成しました。2020年3月に韓国で開催予定であった「日韓田んぼの生きもの調査交流会」が、新型コロナウイルスの感染拡大により中止になったこともあり、韓国内で関係者に配布しました。



塚幸夫さんに協力いただきました。子供たちが有機稲作と慣行稲作の違いを理解するのに役立つ教材として活用していきたいと思っています。



3. 有機畑での食育イベント

子供たちに農地(畑)と野菜に親しんでもらい、地域の作物を食べてもらうことを促進しようと、ゆめいろ農園、ちまちファーム、野菜ソムリエコミュニティちばの協力を得て、有機野菜畑で収穫体験と生き物観察を行うイベントを実施しています。農薬を使っていない畑なので、子供たちが土や野菜に直接触っても安心・安全と、お母さんたちからも好評です。今後も継続予定です。興味のある方は、いら研(☎0470-62-6730)までお問い合わせください。



4. 紙芝居「田んぼでもぐもぐ」の制作

「教育ファーム」での学びの成果を「ICEBA2018 in いすみ」で発表するため、夷隅小5年生が有機稲作と田んぼの食物連鎖をテーマにした紙芝居「田んぼでもぐもぐ」を、作家キム・ファンさんの指導で制作しました。シナリオをキムさん、絵を子供たちが作成したこの紙芝居、上記国際会議のみの上演ではもったいないと、いら研ではエコメッセや米フェスなど大きなイベントでも上演会を行っています。



5. ボードゲームの制作

獣害対策の勉強会で理解を深めるツールとしてシリアスボードゲームを使ったことがきっかけで、テキスト「いすみの田んぼと里山と生物多様性」の世界観を盛り込んだシリアスボードゲームを2020年度の事業で制作しました。制作には東京大学空間情報科学研究センター客員研究員で有限会社ジー・リサーチ代表の今井修さんと房総野生研の手

6. 卒業制作への協力

2018年度の岬中学校卒業記念に、地域の環境の大切さをテーマにした大きな絵画作品を数点制作したいということで相談を受け、絵具や絵筆などの提供と専門家講師(パヴェル・ベドウナーシュさん、山東大記さん)の派遣を行いました。3年生全員が参加する大きなプロジェクトとなり、1月から3月の卒業式近くまで、子供たちは受験の合間を縫って、制作を行ってくれました。



◆各種勉強会◆

1. 「いすみで農的社会的デザインを考える」勉強会

「食と農と環境をつなぐ」(全国農業会議所)の著者、蔦谷栄一氏(農的社会的デザイン研究所代表)を招いて、2016年度に勉強会「いすみで農的社会的デザインを考える」を行いました。まちづくりと環境保全活動を行うためにどういう価値観・意識で臨むことが効果的かと考えた時に、この本のタイトルで表現されていることが、ひとつのキーワードになると考えたのです。その後この地域で起きているいろいろな動きを見ると、自分たちの活動も含め、その通りだったと思います。

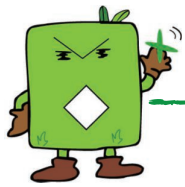


2. 集落単位での獣害対策勉強会

水田を含めた地域の環境保全のためには、できるだけ耕作放棄地を減らすことが重要と考え、耕作放棄地を増やす原因のひとつになっているイノシシによる獣害被害を減らす



写真左: 御宿町実谷地区での仲谷淳さんによるワークショップの様様。写真右: いすみ市荻原地区での勉強会の様様。



ための勉強会も、いすみ市および御宿町の集落で実施しました。仲谷淳さん（農業・食品産業総合研究機構専門員・当時）を講師にお招きし、イノシシ対策には集落が一丸となって協力しながら対策を取ることの重要性和具体的なアプローチ法について、勉強会やワークショップを行いました。

3. ボードゲームを使った獣害対策勉強会

獣害被害を食い止めるには、行政担当職員や猟友会が頑張るだけでは十分ではありません。地域住民の協力があることで効果が各段に上がることは、多くの専門家が指摘するところです。そのことの理解を深めるために、前述の今井修さんを招きシリアスボードゲームを使い、イノシシやカラス対策のワークショップも行いました。また、イノシシのボードゲームは、君津高校や夷隅小学校の子供たちの授業でも活用させていただきました。



写真左上：御宿町でのボードゲームを使った今井修さんによるワークショップの様相。写真右上：君津高校での授業風景。写真下：夷隅小学校での授業風景。

4. 感染症対策勉強会

獣害対策を考える際に見落としがちなのが、動物たちが持っている感染症の問題です。狩猟者が野生鳥獣を処分する際に感染しないようにすることはとても重要なのですが、それに加えて、一般市民が不用意に野生鳥獣に接触することで感染する危険性もあります。そうしたことを防ぐにはどうしたらよいか、いすみ市職員はじめ南房総・中房総の狩猟免許取得者に声をかけし、加藤卓也さん（日本獣医生命科学大学獣医学部 博士）、中野まきこさん（獣医師）を招いた対策勉強会を行いました。



写真左：加藤卓也さん（右人物）によるワークショップの様相。写真右：中野まきこさん（中央人物）による勉強会の様相。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆情報発信◆

1. 地域イベントでの展示活動

「いすみふるさとまつり」、「ライスデー房総」、「いすみ健康マラソン」など、地域で行われる大きなイベントでいら研の活動を知っていただくためのパネル展示を行ってきました。また、2019年度には、いすみ市郷土資料館にて3カ月間開催した、いら研10周年記念イベント「クリエイティブワークから見るいすみライフスタイル研究所10年の歩み」で、環境基金の活動報告展示をさせていただきました。



写真左：「ライスデー房総」での展示の様相。写真右：「いすみ健康マラソン」での展示の様相。

2. ニュースレターの発行

いら研のまちづくりと環境保全活動を広く皆さんに知っていただくために、毎年ニュースレターを発行しています。



3. ホームページでの情報発信

ニュースレターのほか、ホームページやFacebookでも随時情報発信をしています。ぜひアクセスしてください。



ホームページ：
<http://www.isumi-style.com/>



Facebook：
<https://www.facebook.com/ISUMISTYLE>

ニュースレター「isumi-style.com」2021年春臨時増刊3号 地球環境基金助成事業 活動紹介 編

発行日：2021年3月20日
 発行者：NPO法人いすみライフスタイル研究所
 〒299-4616 千葉県いすみ市岬町長者475
 Tel：0470-62-6730 Fax：0470-62-6731
 E-mail：isumi-style@bz03.plala.or.jp
 発行人：高原和江
 執筆・編集・DTP：江崎 亮
 イラスト：シミキョウ（清水京子）
 ※右：このパンフレットは2020年度地球環境基金助成金の助成を受けて作成しました。
 ※左：いら研は「SDGs（Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標-）」を視野に入れたまちづくりに取り組んでいます。

